

No.36

明日への 扉

お客様に喜ばれる ものづくりを目指して

かりしげ けんじ
假重 健二 さん



今年度創設された「鹿屋市優良工事等表彰」では、假重さんを含む17人が優良工事に携わった監理・主任技術者である「優秀技術者」として表彰され、5月に表彰式が行われた。(写真左端が假重さん)

昭和53年志布志市(旧有明町)出身。鹿屋農業高校、鹿児島測量専門学校(現・鹿児島工学院専門学校)を卒業後、県内の建設会社等を経て平成26年から株式会社上之段建設(東原町)に勤務。現場監督として様々な工事を担当する。資格は一級土木施工管理技士など。(39歳)

今年、「優秀技術者」の表彰を受けたことを大変嬉しく思っています。担当した工事は札元2丁目内の排水路整備工事。多方向から水が集まる難しい場所だったため、下流の隣接工区に影響が出ないように、施工順を関係者と入念に打ち合わせし、現場監督として安全に滞りなく完成するために気を配りました。

建設の仕事をしたいと考えたのは、父が建設業を営んでいたことから。進学した鹿屋農業高校では農業土木を学び、それから専門学校を経て建設業界に入りました。

現場監督は、工事を適正に実施するために現場の進行管理を行う責任者です。その仕事は、工事の施工計画の作成や工程管理、品質管理、技術上の管理、従業員の技術指導など、多岐に渡っています。

また、工事を円滑に進めるために、地域の方々や関係者などとコミュニケーションをとるのも、大事な仕事です。工事が始まる前にはお知らせ文書を配り、工事が終わる前にも声かけを行っています。「ここまでする人はなかなかいない」と言われることもありませんが、地域の方々との関係作りは大事だと思っています。

現在携わっているのは昨年9月の台風16号で崩れた輝北町諏訪原の河川の護岸復旧工事。作業員とオペレーター最大15人程度の現場を任さ

れています。河川工事では大雨や土砂崩れによる二次災害の可能性もあるので、天気予報をこまめにチェックするなど、安全に対してとても気を遣います。

毎日の朝礼では、作業員たちとその日の作業手順を確認し、危険な場所や作業などの情報を細かく共有し、リスクの見積もり・改善と軽減対策を話し合います。「RKY(リスクアセスメント危険予知活動)」としての一連の作業です。

工事では交通規制などで近くの方に迷惑をかけることもありますが、工事が完了して「ありがとう」や「きれいになったね」などと声をかけてもらった時は、この仕事をしてよかったと感じます。やはりお客様や地域の方々に喜んでもらうのが一番のやりがいです。

建設の仕事の醍醐味は「ものづくり」だと思います。今後も、技術者として安全を第一に、先輩たちをお手本としながら技術を最大限に生かして、今まで以上に良いものを作れるように切磋琢磨していきたいと思っています。お客様に喜んでもらえる「商品」をこれからもつくり続けていきたいです。

假重 健二さんが出演
FMかのや(7・2MHz)
11月27日(月)9時5分から
(予定)